

大学院生の声

なぜ大学院に進学するの？

工学の世界では、大学院（修士課程）で学ぶことが「技術者としてのスタートライン」とみなされることも少なくありません。より高度な知識・専門性・研究経験を得ることで、社会の活躍の場が広がります。

建設工学専攻 (社会基盤・環境コース)



材料・構造分野
菅谷 琉真さん
茨城県立鉾田第一高等学校出身

土木技術者として快適な社会の実現に貢献するために、日々研究に励んでいます。

大学院進学を考えたきっかけは、学部生の時に参加したハッ場ダムの見学会です。巨大構造物を長期にわたり安全に維持することの難しさや、技術や知識の隔たりが、自分と土木技術者との間に生じていることを痛感しました。土木技術者として、快適な社会を実現するためには、さらなる学修が必要だと考えるようになり、大学院への進学を決めました。現在は光変位センサから得られたデータから、非線形有限要素解析ソフトMARCを用いて、橋梁のFEMモデルでシミュレーションを行っています。

今後は、マレーシアの国際学会での発表を控えています。タイでの留学経験も活かしながら、さらなる英語能力の向上と国際的な視点で研究を捉える力を高めたいです。

建築学専攻 (建築・デザインコース)



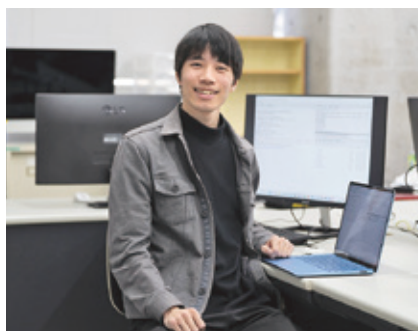
建築計画・意匠分野
森 悠陽さん
京都府立桃山高等学校出身

想定以上のことが起こる社会実験の経験を活かして、継続的に育つ場を実装したい。

学部で設計を学び、建築を「つくる」だけでなく、「場を育てる」方法も同時に考えていきたいと思うようになりました。大学院には、再開発で移りゆく前橋の中心市街地を、実践のフィールドとして設計と研究を繰り返しながら検証できる環境があるため、進学を決めました。前橋は、再開発によって使い方が揺れ動いている場として、観察・対話・実装を往復しやすいという魅力があり、研究対象の場としても暮らしやすさという点でも魅力ある街だと思います。

今後は、建築を動き続けるものとして設計し、関わり方の幅広さを生み出す仕組みまでを含めてデザインできる建築家になりたいです。社会実験を通して得た知見を実際の計画や設計に落とし込み、まちなかで継続的に育つ場を実装することが目標です。

生命情報学専攻 (数理情報生命科学コース)



生命情報科学分野
大滝 武輝さん
愛知県立岡崎北高等学校出身

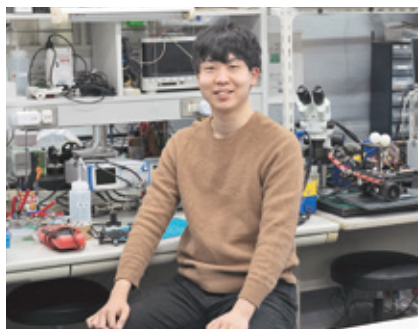
研究室で質問や議論を重ねられる環境があるため、自身の研究を追求できています。

学部時代の研究から、生命情報学の分野に対する強い関心を抱きました。新たな知識を得る楽しさを実感し、自身の研究をより発展させ、学術的な成果として残したいと考えようになりました。

現在は、天然ゴムの原料でもあるパラゴムノキが、葉枯病の流行によりラテックス収量が大きく低下しているという課題に対し、DNAの変異データと病害の進行度データを統計的に解析し、耐病性に関与する遺伝的要因を推定しています。病害の原因である個体を早期に選抜できるゲノム選抜（Genomic Selection）の実現を目指しています。

今後は、自身の研究をさらに発展させ、論文として公表することが目標です。英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際学会などの場で自らの研究成果を発表できるようになりたいです。

システム生体工学専攻 (生体・情報・システム工学コース)



生体機能制御システム分野

金山 拓真さん

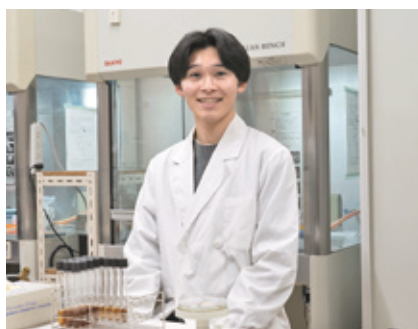
新潟第一高等学校出身

研究をさらに深め、将来は社会の安全や安心に 貢献できる技術開発に携わりたい

学部では主にハードウェアの開発に取り組みましたが、匂い源探索アルゴリズムの構築も含めて研究をさらに発展させたいと考え、大学院への進学を決めました。匂いという目に見えない情報をセンサーで捉え、その情報をもとに自律的に匂い源を探索する飛行ロボットの研究を行っています。昆虫の優れた匂い源の探索行動をヒントにしたアルゴリズムを取り入れ、災害現場などの人が立ち入りにくい環境での活用を目指しています。

また、大学院では、自分の研究内容を学会などで発表する機会が多くあります。聞き手に分かりやすく伝えるために、説明の仕方や構成を工夫しながら試行錯誤を重ねてきました。その結果、学部生の頃と比べて、自分の考えを相手に的確に伝える力が成長したと感じています。

生物工学専攻 (バイオテクノロジーコース)



生物利用分野

飯田 航輔さん

銚子市立銚子高等学校出身

今までにない成果を上げるために、 今は目の前のことに真剣に取り組む。

目標としている職業の募集が院卒対象のものが多かったため、学部入学時には大学院への進学を決めていました。研究を進める中で、さらに興味と関心が深まり、学部の4年間では調べ尽くせないと感じていたことも、大学院に進学した理由です。

現在は、廃棄・未利用農作物が、ミュータンス菌やアクネ菌の増殖に関わる抗菌成分を持っているかを確認し、それらを有効に利用するため、善玉菌の一種であるビフィズス菌を増やすための栄養分を研究する資化試験を中心に研究を行っています。

将来は、自身の研究で今までにない成果を上げてみたいと考えています。そのためにも、現在進めている研究に真剣に取り組む、柔軟で革新的な考え方ができるような人に成長していきたいです。

2026年4月 大学院 博士前期課程改編

大学院 博士前期課程 《環境・生命工学専攻（入学定員 50 人）》

社会基盤・環境コース

(旧：建設工学専攻)

社会基盤分野

環境整備分野

建築・デザインコース

(旧：建築学専攻)

建築学・空間デザイン分野

情報メディア・プロダクトデザイン分野

数理情報生命科学コース

(旧：生命情報学専攻)

生体・情報・システム工学コース

(旧：システム生体工学専攻)

バイオテクノロジーコース

(旧：生物工学専攻)

大学院 博士後期課程

《環境・生命工学専攻（入学定員 4 人）》

環境デザイン工学分野

生命工学分野